

# 花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ園立ててく3

国立市立国立第七小学校

平成27年4月6日 NO.1 (201)



モンタ博士「みなさん。こんにちは。いよいよ<sup>しんがっき</sup>新学期<sup>はる</sup>。春のスタートだね。」

オー君 「ぼくたち、<sup>しんきゅう</sup>進級しました。」

モンタ博士「おめでとうおめでとう。それはそれはよかったね。」

花ちゃん 「わたしたち、1つ<sup>にい</sup>お兄さん・<sup>ねえ</sup>お姉さんになったんですね。うれしいわ。」

オー君 「クラスがえした<sup>がくねん</sup>学年もあつたし、またたくさんのお友達<sup>ともたち</sup>ができるね。」

花ちゃん 「そうね。1つ<sup>がくねん</sup>学年<sup>あ</sup>が上がったから、またいろいろチャレンジしましょう。」

花ちゃん 「<sup>にゅうがくしき</sup>入学式では、ピッカピカの1<sup>ねんせい</sup>年生がとってもかわいかったですね。」

モンタ博士「1<sup>ねんせい</sup>年生のみなさん、<sup>ほごしゃ</sup>保護者の皆様、<sup>みなさま</sup>ご入学<sup>にゅうがく</sup>おめでとうございます。」

オー君 「<sup>きょう</sup>今日から国立第七小学校<sup>くにたちだいななしょうがっこう</sup>の仲間だ。いっしょにいっぱい遊んであげるんだ。」

花ちゃん 「<sup>くにたちだいななしょうがっこう</sup>国立第七小学校のことをいっぱい<sup>おし</sup>教えてあげましょう。」

オー君 「<sup>くにたちだいななしょうがっこう</sup>国立第七小学校は、みんながとても『<sup>なかよ</sup>仲良しの<sup>がっこう</sup>学校』、だって、<sup>もりたこうちょうせんせい</sup>森田校長先生もおっしゃっていました。」

モンタ博士「そのとおりだね。今年<sup>ことし</sup>はみんな<sup>めい</sup>で359名のスタートだ。みんな<sup>がっこうせいかつ</sup>で学校生活を  
楽しいもの<sup>たの</sup>にしていこう。森田校長先生<sup>もりたこうちょうせんせい</sup>も先生方<sup>せんせいがた</sup>や職員<sup>しょくいん</sup>の人たちみんな<sup>ひと</sup>で、  
『明日<sup>あした</sup>が楽しみ<sup>たの</sup>な学校<sup>がっこう</sup>』をつくるんだ<sup>い</sup>と言<sup>い</sup>っていたよ。」

オー君 「『明日<sup>あした</sup>が楽しみ<sup>たの</sup>な学校<sup>がっこう</sup>』…なるほど<sup>ことば</sup>いい言葉<sup>く</sup>ですね。国立七小<sup>くにたちななしょう</sup>にぴったりだ。」

モンタ博士「そのとおりだね。それから、モンタ博士<sup>はかせ</sup>も谷保<sup>やほ</sup>・富士見台<sup>ふしみだい</sup>の豊かな自然<sup>ゆた</sup>の中で、  
心<sup>こころ</sup>も体<sup>からだ</sup>もも<sup>おお</sup>っとも<sup>せいちよう</sup>っと大きく成長<sup>ねが</sup>してほしいと、願<sup>ねが</sup>っているよ。」

花ちゃん 「今年<sup>ことし</sup>もみんな<sup>い</sup>でわくわくドキドキしながら、あちこち<sup>い</sup>てくてくしていきましょ  
う。あれ？オー君<sup>くん</sup>がいないわ。どこ<sup>い</sup>に行<sup>い</sup>っちゃったのかしら。」

オー君 「モンタ博士<sup>はかせ</sup>！花ちゃん<sup>はな</sup>！こ<sup>こうてい</sup>っちにおいでよ。校庭<sup>こうてい</sup>のサクラが花吹雪<sup>はなふぶき</sup>でとても  
きれい<sup>な</sup>だけど、菜<sup>な</sup>の花<sup>はな</sup>も黄色<sup>きいろ</sup>の花<sup>はな</sup>がと<sup>い</sup>ってもステキ<sup>い</sup>だよ。」

花ちゃん 「そうね。とても素晴<sup>すば</sup>らしいですね。『生き物<sup>い</sup>がいっぱい<sup>もの</sup>の学校<sup>がっこう</sup>』にするんだと、  
と<sup>い</sup>うことで、去年<sup>きょねん</sup>からみんな<sup>い</sup>でいろいろ花壇<sup>かたん</sup>を作<sup>つく</sup>ったりしたね。」

モンタ博士「森田校長先生<sup>もりたこうちょうせんせい</sup>は、また今年<sup>ことし</sup>も校庭<sup>こうてい</sup>のあちこち<sup>い</sup>に、子供達<sup>こどもたち</sup>と楽しいもの<sup>たの</sup>を作<sup>つく</sup>  
って<sup>い</sup>言<sup>い</sup>ったいたよ。みんなもたくさん<sup>てつた</sup>お手伝い<sup>てつた</sup>していこうね。」

花ちゃん 「はーい！わかりました。あれあれ？オー君<sup>くん</sup>何<sup>なん</sup>を<sup>なに</sup>しているの？」

オー君 「ねえねえ、花ちゃん<sup>はな</sup>。菜<sup>な</sup>の花<sup>はな</sup>って、よーく<sup>み</sup>見ると花びら<sup>はな</sup>が4枚<sup>まい</sup>なんだね。」

モンタ博士「ほほー。オー君<sup>くん</sup>さっそく<sup>かんさつ</sup>観察<sup>かんさつ</sup>だね。きれいな菜<sup>な</sup>の花<sup>はな</sup>だなあ<sup>おも</sup>と思う<sup>おも</sup>ことはもち  
ろんすてき<sup>お</sup>だけど、それ<sup>お</sup>で終わ<sup>お</sup>りにする<sup>お</sup>のは、ちょい<sup>お</sup>とも<sup>お</sup>ったいないね。」

オー君 「どうしてかな？なぜかな？と不思議<sup>ふしぎ</sup>に思<sup>し</sup>うことが、と<sup>たいせつ</sup>っても大切<sup>たいせつ</sup>なんですね。」

花ちゃん 「わからないこと<sup>しぶん</sup>や自分<sup>み</sup>で見<sup>み</sup>たいいろいろ<sup>かんが</sup>なものを<sup>かんが</sup>を<sup>かんが</sup>あれこれ<sup>かんが</sup>と考<sup>かんが</sup>えたり、疑問<sup>ぎもん</sup>  
に思<sup>おも</sup>ったり<sup>おも</sup>することはと<sup>すば</sup>っても素晴<sup>すば</sup>らしいこと<sup>すば</sup>なんですね。」

## 今年もよろしく！

私は、子供と一緒に「おや何だろう？」「どうしてなのかな？」とわくわくドキドキしながら、いろ  
いろな植物や昆虫、さらに星や鳥などを調べたり考えたりすることがとても好きです。子供が様々なこ  
とを発見しながら驚き・感心する姿を見るのも大好きです。そんな楽しい様子を分かりやすく子供はもち  
ろん、保護者や地域の人々に少しでも情報発信していけたらいいなと思い、この「国立てくてく」を  
発行しています。「国立てくてく」は、自然に直接触れることの楽しさや大切さを記すと共に、五感  
を通しての直接体験の行為が豊かな感性を育てることに通じることをお伝えしたいと考えています。また、  
子ども達が、風の様子や空気のおい、土や草の香り、さらに周りの景色や様子など、自然環境を五体  
に刻みながら自然の神秘さや奥深さなどをより深く実感し、学んでもらえたら嬉しい限りです。

今後も、花ちゃん、オー君、モンタ博士の3人のキャラクターが登場させ会話形式で書き、創意工夫  
を重ねていきます。今年から谷保や富士見台、国立市の歴史にも少しずつチャレンジしていきたいと思  
います。3年目に入りますが、昨年度までのものは、学校HPにありますのでぜひそちらもご覧下さい。

この「国立てくてく」通信を書く事は、私自身にとって最高の研鑽の機会を与えて頂いたものと心よ  
り深く感謝しております。本当にありがとうございます。楽しく頑張っ<sup>て</sup>書き綴<sup>つづ</sup>っていきます。(森田弘文)